

4-1-5 第一専門診療部

4-1-5-1 消化器科

1. 概要・特色

医長・医員・専門研修医の3人体制で診療している。小児の消化器疾患、肝疾患、栄養管理のスペシャリストとして、総合診療部、外科、移植免疫科、集中治療部、感染症科、心の診療部などとの連携をスムーズにする中で、質の高い医療の提供に尽力している。

医長は、米国の小児消化器病専門医である。

炎症成長疾患の診断治療には特に力を入れており、乳幼児を含む年間15名程度のクローン病、潰瘍性大腸炎患者を新規でフォローしている。

生体肝移植を必要とする劇症肝炎、重症肝不全患者の診療にも移植免疫科・集中治療部とともにあたっており、術前管理と原因精査を中心に貢献している。

外来では、炎症成長疾患患者のフォローに加え、重症便秘症、過敏性腸症候群、肝機能障害などの診療を中心に紹介患者も多く、患者・家族からも高い評価も受けている。

2. 診療活動

2.1 炎症性腸疾患の診断・治療

近年小児にも増えてきている潰瘍性大腸炎・クローン病といった炎症性腸疾患の診療には特に力を入れており、全国から紹介患者を受けている。乳幼児であっても、内視鏡検査と放射線科・病理診断科の協力を得ての適切な診断を行い、免疫調整剤や抗サイトカイン療法の積極的な導入により、栄養療法を最小限とするなど患者のQOL改善にも力を注いでいる。

小児の炎症性腸疾患の一大拠点として、疾患と成長の問題、QOL向上に関しての臨床研究も進めている。

2.2 便秘症・過敏性腸症候群

便秘症や過敏性腸症候群といった機能性の腸疾患に関しても、器質的疾患の適切な除外と、積極的な薬剤療法により、患者のQOLを大きく改善している。

学童の消化器症状には心因的要素が強い影響を及ぼしていることも少なくなく、適応があると判断すれば、総合診療部・こころの診療部の協力も得て、患者のニーズに応えている。

2.3 その他の消化管疾患

乳幼児期の血便精査のための大腸ファイバーやポリープ切除術、乳児期からの血便をはじめとする消化器症状の原因としての好酸球性胃腸炎の診断治療にも積極的に取り組んでいる。

2.4 肝疾患・肝機能障害・代謝性疾患

肝機能障害の評価目的のコンサルトを病院内外から多く受けいれている。

ウイルス性肝炎や胆道閉鎖症、自己免疫性肝炎、ウイルソン病などの肝疾患に加え、シトリン欠損症や尿素サイクル異常、糖原病などの代謝性疾患の診断と治療など、関係各科の協力も得ながら積極的に行っている。

2.5 生体肝移植

移植免疫科の大躍進の中、劇症肝炎、重症肝不全、胆道閉鎖症術後患者など、生体肝移植を必要とする患者が激増した。劇症肝炎の原因検索、重症肝不全の術前管理などを移植免疫科、集中治療部と協力して行っている。